

令和元年度かしわらっ子はぐくみテスト における結果の概要について

柏原市教育委員会

1. 目的

- 児童が自身の学習状況について知ることにより、学習に対しての目標を持ち、その向上にむけて意欲を高める。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 概要

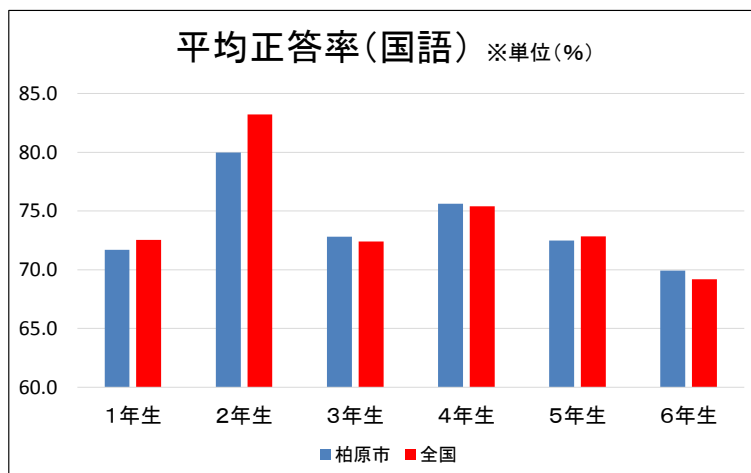
- (1)実施日 令和元年12月12日(木)～13日(金)のいずれか1日
- (2)対象 柏原市立小学校に通う第1学年から第6学年の児童
- (3)内容 ①教科に関する調査(国語、算数)
②生活習慣や学習に関する質問紙調査(i-Check)

令和元年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

今年度の結果(国語)

平均正答率		
	柏原市	全国
1年生	71.7	72.5
2年生	80.0	83.2
3年生	72.8	72.4
4年生	75.6	75.4
5年生	72.5	72.8
6年生	69.9	69.2

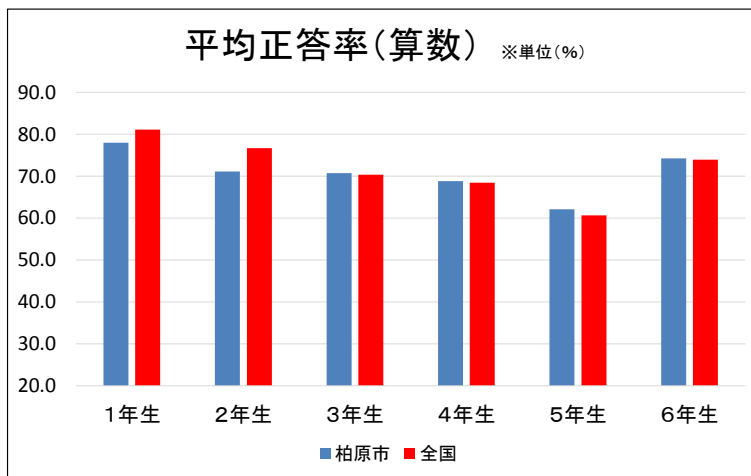
※単位(%)



今年度の結果(算数)

平均正答率		
	柏原市	全国
1年生	78.0	81.1
2年生	71.1	76.6
3年生	70.8	70.4
4年生	68.8	68.5
5年生	62.1	60.6
6年生	74.2	73.9

※単位(%)

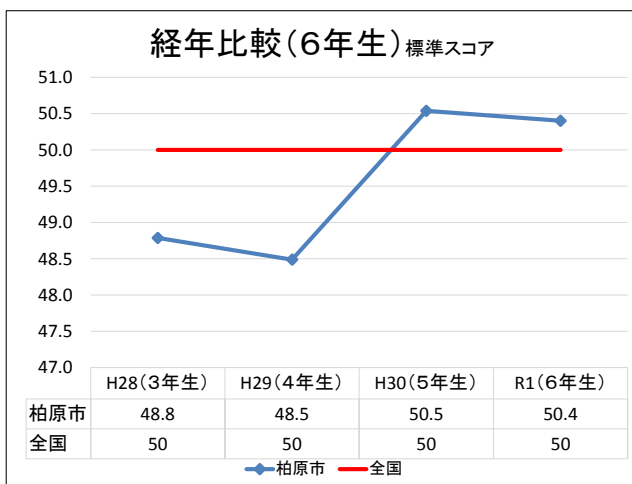
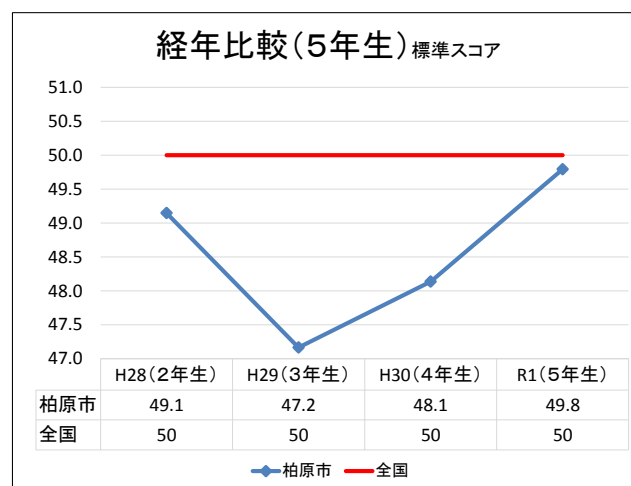
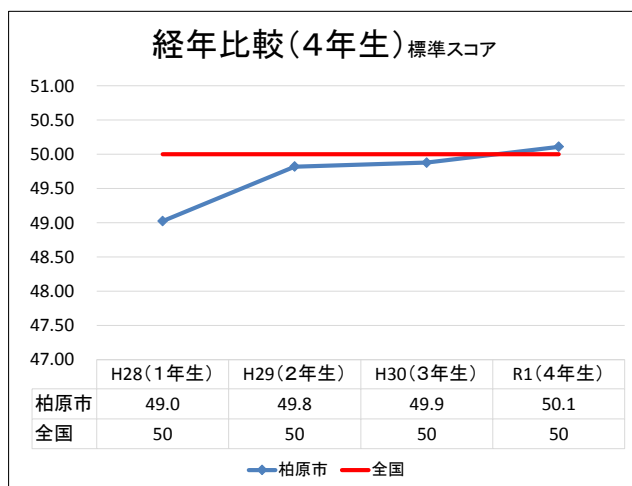
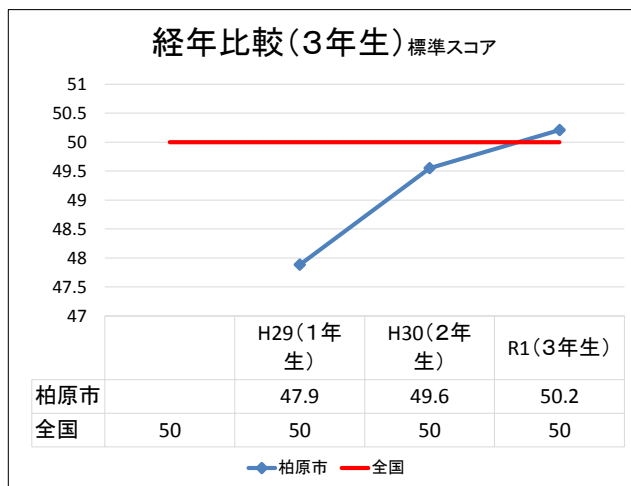
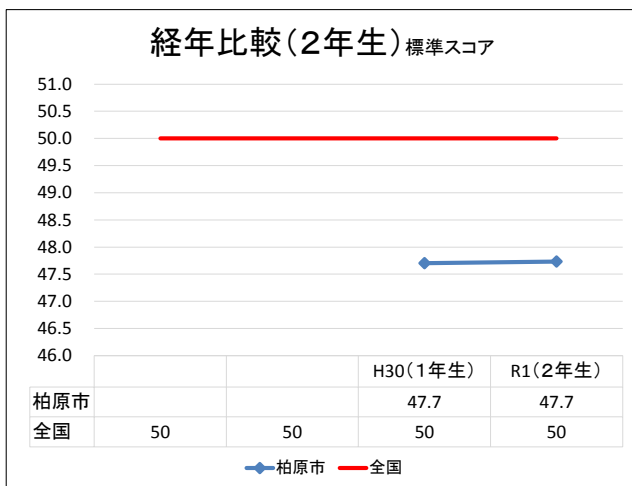


国語は、1年生、2年生、5年生において全国平均を下回ったが、3年生、4年生、6年生では全国平均を上回る結果となった。算数は、1年生、2年生において全国平均を下回ったが、3年生から6年生において、全国平均を上回る結果となった。

令和元年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

同一集団の成長(国語)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

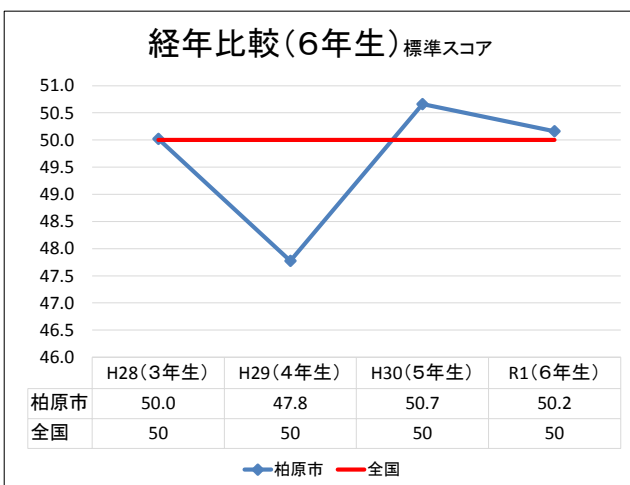
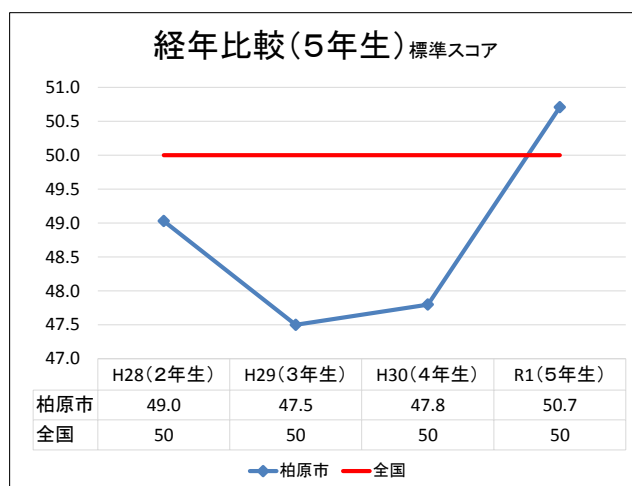
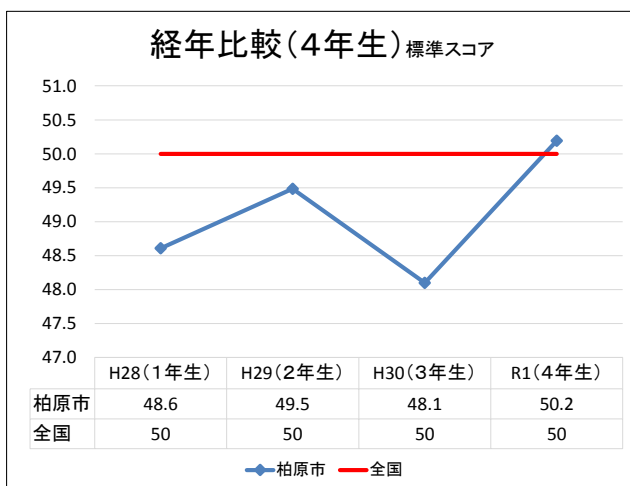
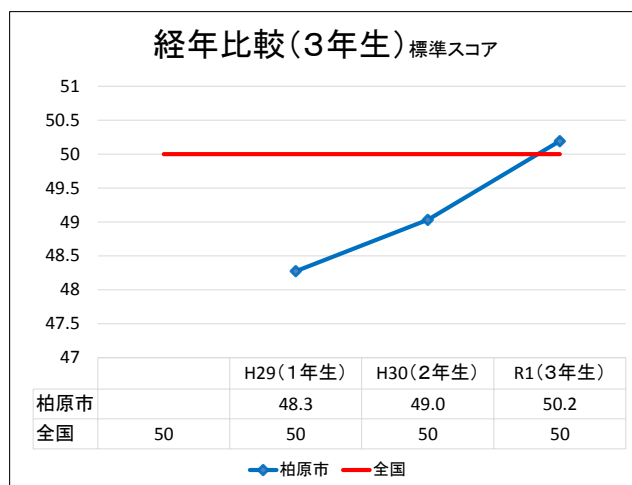
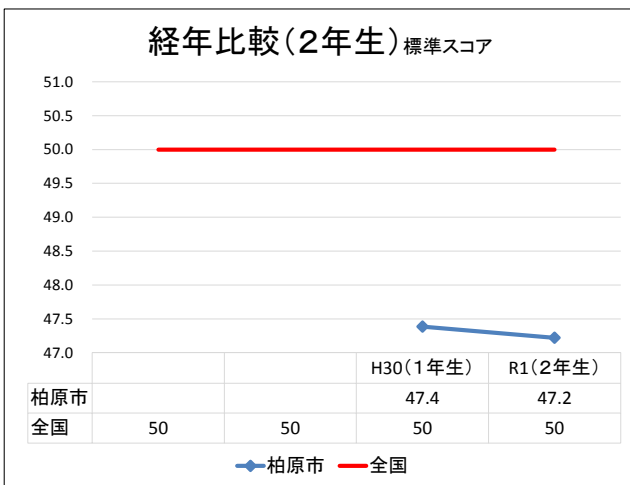


平成28年度の実施初年度以降、おおむね上昇傾向である。今年度は、3年生、4年生、6年生で全国を上回った。5年生は、全国にわずかにおよばなかったものの、この3年は上昇傾向である。2年生は横ばいである。

令和元年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

同一集団の成長(算数)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。



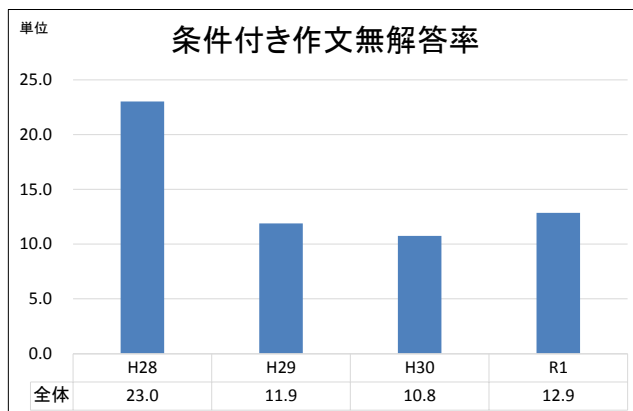
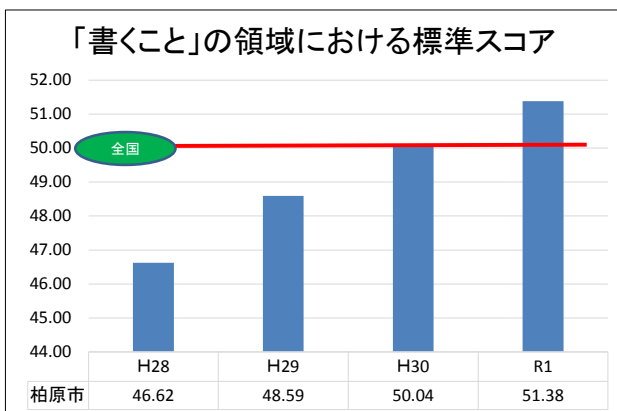
算数は、3年生から5年生は、昨年度に比べ上昇し、全国を上回る結果となった。6年生は、昨年度よりわずかに下降したものの全国を上回っている。2年生は昨年度よりやや下降した。

「書く力の育成」を検証

「書くこと」の領域における標準スコア(全国比)の推移

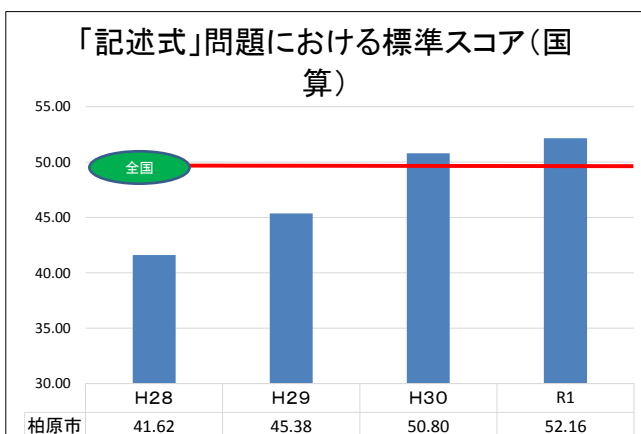
国語における条件付き作文問題無解答率の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



「記述式」問題における標準スコア(全国比)の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



市で重点的に取り組んでいる「書く力の育成」に関するデータである。

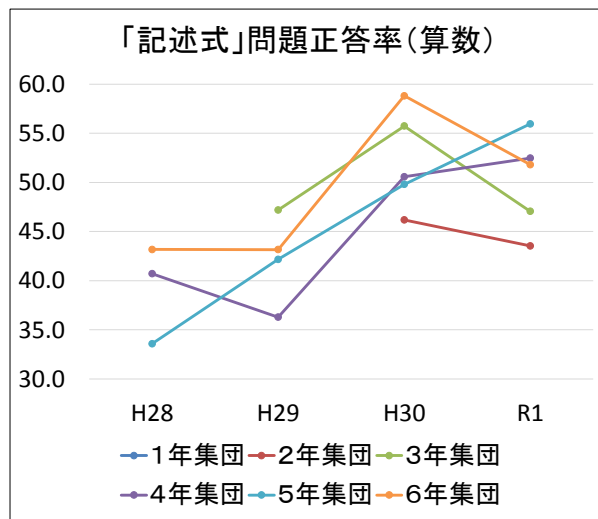
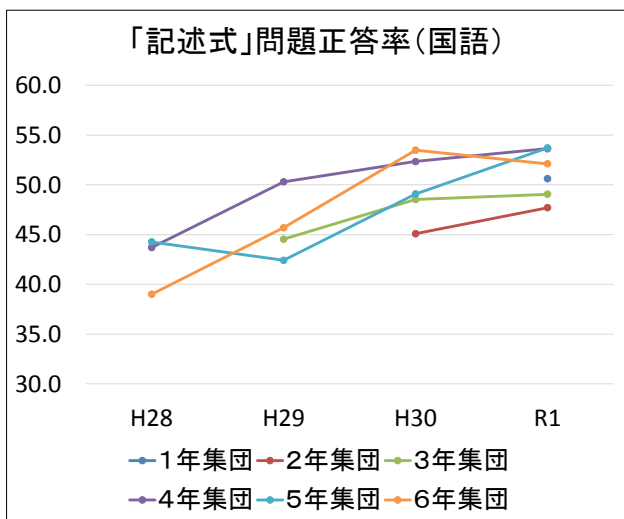
国語科における「書くこと」領域については、上昇傾向であり今年度は全国平均を上回った。

条件付き作文の無解答率は昨年度からわずかに上昇したものの、平成28年度から見ると、全体的には改善傾向であると考えられる。

「記述式」問題については上昇傾向で、2年続けて全国平均を上回っている。

教科別の「記述式」問題の同一集団の推移を見てみると、算数において2年生、3年生、6年生が昨年度から下降しているが、全体的には上昇傾向であり、「書く力の育成」についての取組みの成果が表れている。

「記述式」問題における同一集団の推移

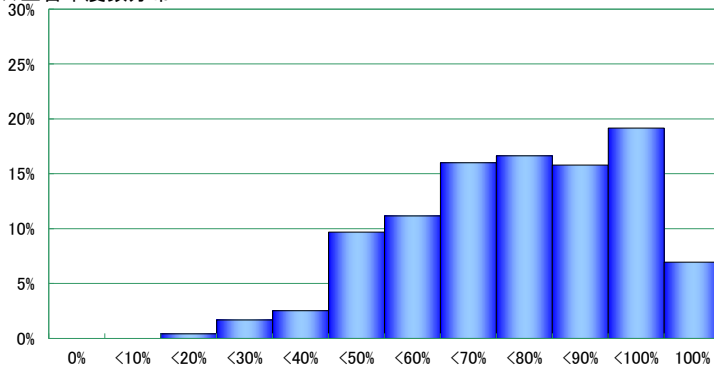


国語(1年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
全体		71.7	72.5	
基礎		77.0	77.3	
活用		50.4	53.4	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	75.8	78.5	
	書くこと	55.4	54.0	
	読むこと	64.7	68.7	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	90.2	88.9	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	63.1	63.2	
	話す・聞く能力	75.8	78.5	
	書く能力	55.0	54.2	
	読む能力	61.8	65.4	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	90.2	88.9	
	選択式	74.9	77.3	
	短答式	88.6	85.5	
	記述式	53.9	53.3	

★正答率度数分布



○「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の性質に関する事項」の領域で全国を上回った。
 ○記述式問題について全国をやや上回った。
 ▼「話すこと・聞くこと」の領域では2.7%、「読むこと」の領域では4.0%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(1年)問題で課題の見られた設問

すくキ
。とユ
ーこ
ーこ
ろキ
がユ
ー
か
と
わ
た
い
か
い
こ
た
え
で
な

正
答
(
例
)

著作権の関係で表示できません。

6-(2)

本問は【メモ】の情報を活用して【ぶんしょう】の一部をより詳しく書き直す問題である。書き直すにあたり、「すみれさん」の感想(要望)に応えることと、文末の「かわいかったです。」につながるように記述することが条件である。一つ目の条件を満たしていない児童に対しては、図や表のような非連続型テキストの読みの学習を指導する必要がある。二つ目の条件を満たしていない児童には、短文を利用して、主語・述語や修飾・被修飾の関係性を認識させる指導が必要である。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が30.5%、全国が31.4%で、0.9%全国を下回った。

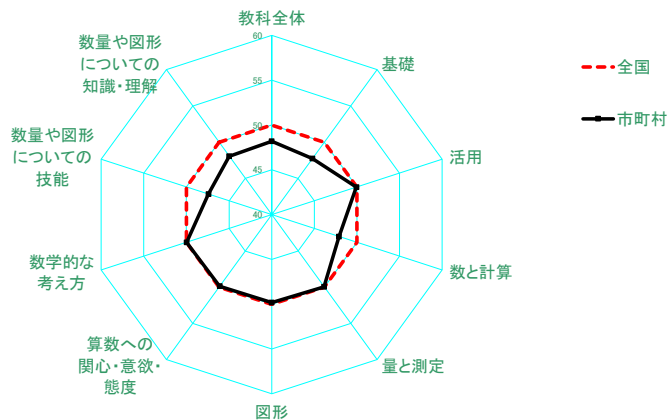
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

算数(1年)

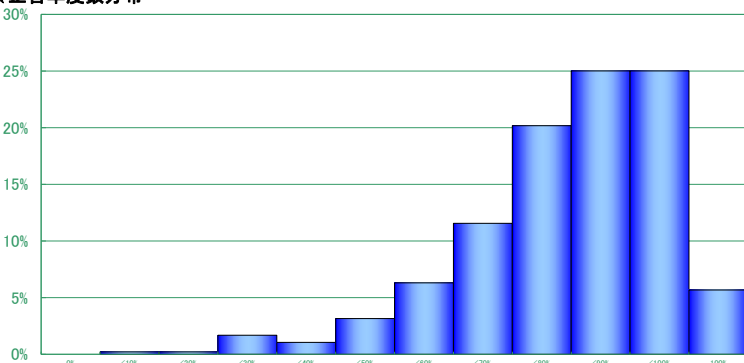
問題別調査結果

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	78.0	81.1
	基礎	84.5	88.2
	活用	47.3	47.5
学習指導要領の領域等	数と計算	79.3	82.8
	量と測定	80.8	81.0
	図形	65.6	66.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	65.1	65.4
	数学的な考え方	66.5	66.5
	数量や図形についての技能	82.3	86.5
	数量や図形についての知識・理解	76.5	80.7
問題形式	選択式	68.1	68.5
	短答式	80.8	84.6
	記述式	32.8	24.0

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



★正答率度数分布



○活用問題では全国正答率にわずかに及ばなかったがおおむね良好な結果となった。

○記述式問題について全国を8.8%上回った。

▼「数と計算」の領域では3.5%、「量と測定」の領域では0.2%、「図形」の領域では0.6%全国を下回った。「数と計算」の領域に課題があると考えられる。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(1年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

15-(1)
 問題文で、ゆうたさんが描いた絵には、乗り物の絵と動物の絵の2種類があるという条件が示されている。示されている長い問題文から解決のために必要な情報を読み取る力が求められている。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が33.4%、全国が42.6%で、9.2%全国を下回った。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

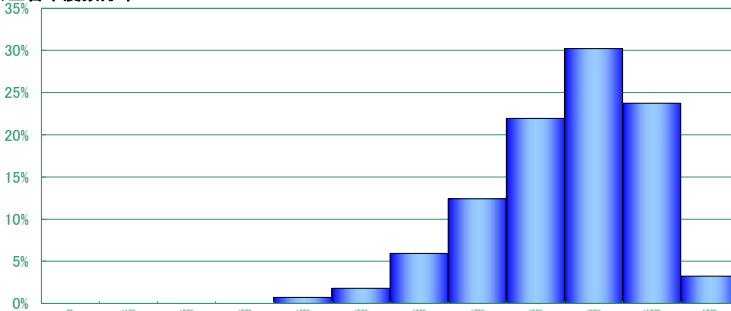
正答・・・ 7-4=3

国語(2年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	80.0	83.2	
	基礎	86.7	89.9	
	活用	47.9	51.6	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	88.5	91.9	
	書くこと	65.8	69.3	
	読むこと	68.8	73.1	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	92.5	94.9	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	74.3	77.8	
	話す・聞く能力	88.5	91.9	
	書く能力	66.5	70.0	
	読む能力	63.6	67.8	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	92.5	94.9	
	選択式	76.1	79.7	
	短答式	92.0	94.6	
	記述式	71.7	75.1	

★正答率度数分布



○正答率80～90%の児童が多い。

▼全ての項目で全国を下回った。特に「読むこと」の領域が一番開きが大きく、全国を4.3%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(2年)問題で課題の見られた設問

5-(2)

本問は説明的な文章の読み取りの力が求められる問題である。どのような事柄が書かれているのかを順に読み取っていき、全体として何が書かれているかを理解することが基本である。本市では1と誤答した児童が48.4%と正答の41.0%を逆転してしまっている。説明的な文章の読み取りが特に課題であることがわかる。

第3学年では、段落相互の関係を考えながら読むといった指導事項が出てくる、そこにつなげていくためにも、何がどのような順序で書かれているのかを確実に捉えられるように指導する必要がある。

本問の目標値が50.0%に対して、正答率は、本市が41.0%、全国が47.8%で、6.8%全国を下回った。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

著作権の関係で表示できません。

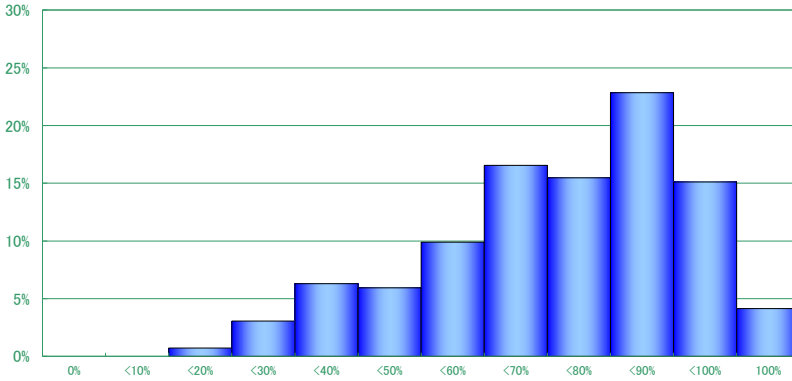
正答・・・ ②

算数(2年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	71.1	76.6	
	基礎	75.2	81.1	
	活用	54.1	58.2	
学習指導要領の領域等	数と計算	73.4	79.2	
	量と測定	64.0	69.0	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	64.0	69.0	
	数学的な考え方	61.7	66.8	
	数量や図形についての技能	77.1	82.1	
	数量や図形についての知識・理解	68.6	74.8	
問題形式	選択式	68.8	74.2	
	短答式	74.1	79.7	
	記述式	54.9	63.0	

★正答率度数分布



- 正答率80～90%の児童が多い。
- ▼全ての項目で全国を下回った。
- ▼記述式問題の正答率の開きが特に大きく、8.1%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(2年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

8
本問は、結合法則を問題文に当てはめた時に意味するものは何かを答える問題である。()については、()を用いた式は計算のきまりとして扱うだけではなく、考え方を表す記号としても有効に働くことを理解させたい。指導にあたっては、式をもとに問題に返していくなど、問題と立式を相互に関連付ける活動を充実させることが重要である。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が26.4%、全国が33.9%で、7.5%全国を下回った。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

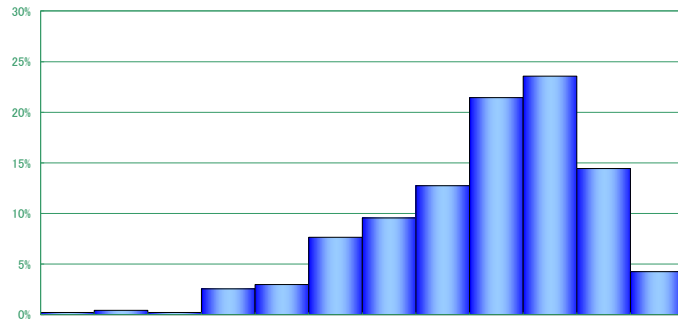
正答(ア)女の子
(イ)男の子

国語(3年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	72.8	72.4	
	基礎	74.3	73.4	
	活用	66.5	68.1	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	82.5	83.2	
	書くこと	58.8	59.2	
	読むこと	71.9	73.0	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	76.0	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	67.8	68.6	
	話す・聞く能力	82.5	83.2	
	書く能力	59.9	60.8	
	読む能力	69.5	70.7	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	77.1	75.2	
	選択式	71.6	71.7	
	短答式	84.7	82.2	
	記述式	59.7	60.9	

★正答率度数分布



- 全国の平均正答率を上回った。
- 全体的に全国をやや下回る項目が多いものの、おおむね良好な状態である。
- ▼「読むこと」の領域が一番開きが大きく、全国を1.1%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

国語(3年)問題で課題の見られた設問

正答... ③

3-(2)

本問はローマ字の表記についての問題である。身の回りでローマ字で表記されているものは、地名や駅名など数多くある。国語の授業以外の時間も活用して、実際にローマ字表記されているものを多く読む経験をつませることが大切である。また今後求められるパソコンのキーボード入力とも関連して丁寧に指導する必要がある。

本問の目標値が60.0%に対して、正答率は、本市が53.1%、全国が68.2%で、15.1%全国を下回った。

著作権の関係で表示できません。

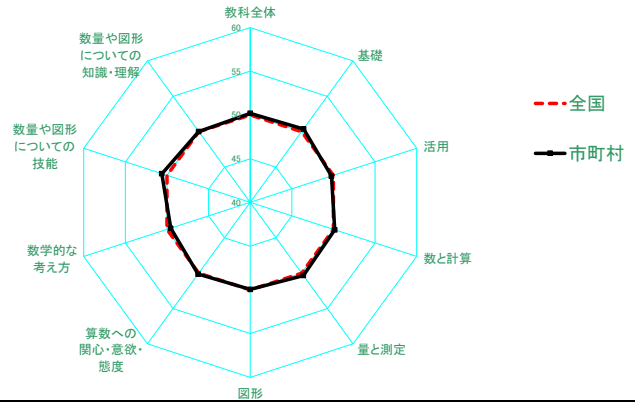
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

算数(3年)

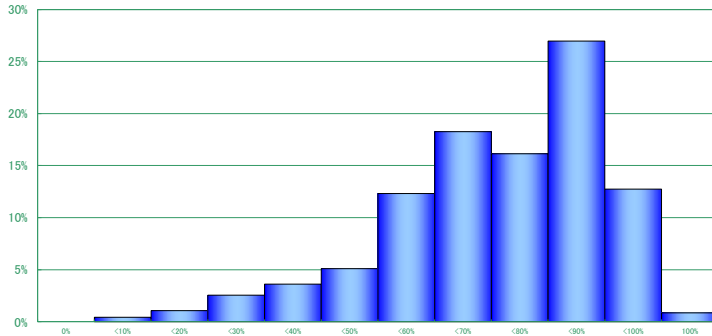
問題別調査結果

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	70.8	70.4
	基礎	78.2	77.4
	活用	51.5	52.1
学習指導要領の領域等	数と計算	69.7	69.4
	量と測定	74.8	74.1
	図形	68.7	68.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	64.9	64.7
	数学的な考え方	59.0	60.0
	数量や図形についての技能	70.6	69.4
	数量や図形についての知識・理解	77.7	77.7
問題形式	選択式	76.3	76.1
	短答式	70.4	69.6
	記述式	24.1	25.6

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



★正答率度数分布



○全国の平均正答率を上回った。

▼記述式問題が1.5%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(3年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答(例)

34÷6=5あまり4 だから、列の数は5+1で6列になる。一番後ろの列はあまりの4人になる。

19-(2)

本問は、除法の余りをどう処理するかを言葉で説明することが求められている問題である。除法の計算で余りが出た場合、商は何を表し、余りは何を表しているのかを十分に理解させることが重要である。

本問の目標値が30.0%に対して、正答率は、本市が14.6%、全国が15.3%で、0.7%全国を下回った。

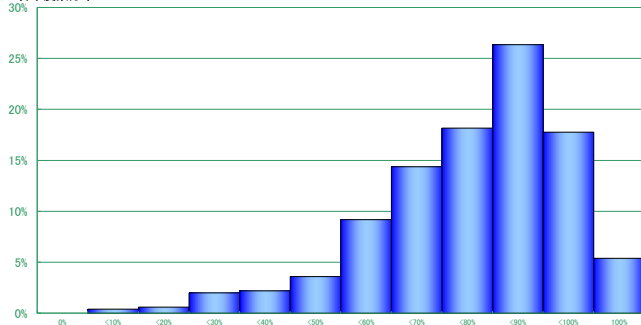
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

国語(4年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	75.6	75.4	
	基礎	76.9	76.5	
	活用	69.7	70.4	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	81.7	82.8	
	書くこと	58.5	54.1	
	読むこと	82.6	82.7	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.6	79.9	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	67.8	65.8	
	話す・聞く能力	81.7	82.8	
	書く能力	60.0	55.9	
	読む能力	79.0	79.1	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	77.6	78.6	
	選択式	77.9	78.6	
	短答式	84.6	85.6	
	記述式	58.4	54.4	

★正答率数分布



○全国の平均正答率を上回った。

○「書くこと」の領域が4.4%全国を上回った。「記述式」問題でも全国を4.0%上回り、一年生から「かしわらっ子はぐくみテスト」を指標として「書く力」に取り組んできた成果が表れている。

▼「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が1.3%全国を下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

国語(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答(例) 昔の人は、羽根つきの様子が、トンボがとぶ様子に、にていると考えた(から。)

6-(2)

本問は【下書き】と【しりょう】とを比較しながら読み、「理由」として書くべき情報を取り出した上で、【下書き】の書式に合わせて記述する問題である。【しりょう】からの情報の取り出しでつまづいている児童には、鍵となる用語に傍線を引いたり、段落ごとに「見出し」をつけたりする読み方を指導し、「理由」として適切な内容を確定させるための指導が必要である。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が29.6%、全国が32.5%で、2.9%全国を下回った。

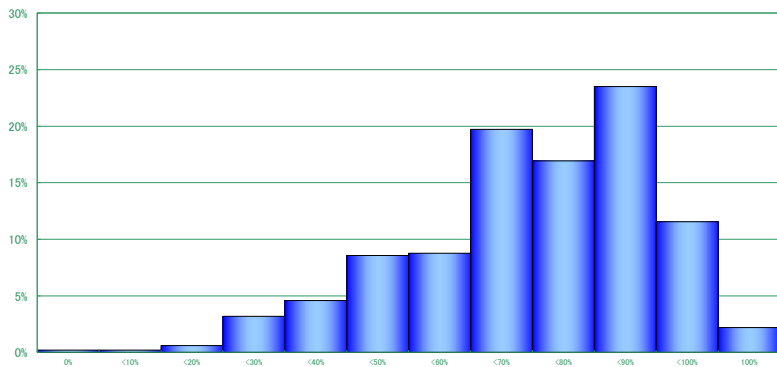
※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

算数(4年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	68.8	68.5	
	基礎	72.8	72.9	
	活用	55.6	53.6	
学習指導要領の領域等	数と計算	72.3	69.8	
	量と測定	67.3	69.0	
	図形	50.9	55.6	
	数量関係	69.1	70.1	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	61.5	60.6	
	数学的な考え方	62.3	61.9	
	数量や図形についての技能	68.8	68.0	
	数量や図形についての知識・理解	70.0	70.6	
問題形式	選択式	66.5	67.3	
	短答式	78.3	76.4	
	記述式	30.3	28.9	

★正答率度数分布



○記述式問題の正答率が1.4%全国を上回った。国語と同様、一年生から「かしわらっ子はぐくみテスト」を指標として「書く力」に取り組んできた成果が表れている。

▼「図形」の領域が一番開きが大きく、4.7%全国を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

15
 本問は、対角線の性質について問われている問題である。図形については、定義や性質、作図について学習をする。四角形の学習では、作図の後に対角線の性質を学ぶことがよくあるが、対角線の性質を利用して作図をすることで対角線についての理解を深めることができる。「正確な図を描く」ことだけではなく「作図を通して図形の性質を学ぶ」という意識を持った指導が重要である。

本問の目標値が35.0%に対して、正答率は、本市が31.3%、全国が34.8%で、3.5%全国を下回った。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

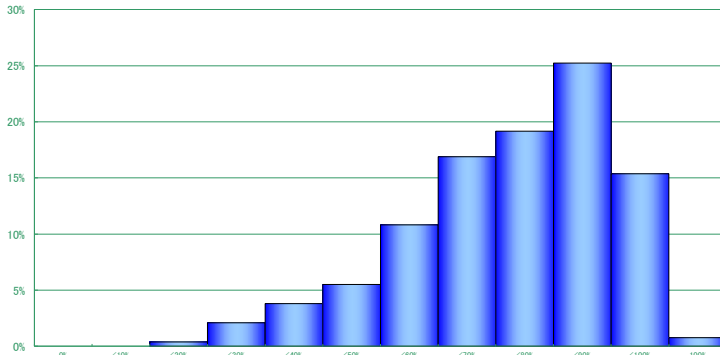
正答・・・ ②

国語(5年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	72.5	72.8	
	基礎	76.9	76.4	
	活用	52.0	56.2	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	79.7	82.2	
	書くこと	67.8	63.0	
	読むこと	73.0	77.3	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.7	72.8	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	71.1	70.2	
	話す・聞く能力	79.7	82.2	
	書く能力	66.2	62.1	
	読む能力	70.7	74.7	
	言語についての知識・理解・技能	72.9	72.4	
問題形式	選択式	75.3	77.8	
	短答式	74.3	75.0	
	記述式	63.9	59.5	

★正答率度数分布



○「書くこと」の領域が全国を4.8%上回った。

▼「読むこと」の領域が全国を4.3%下回った。

▼活用問題の正答率が全国を4.2%下回っており、特に、「読むこと」に関する活用問題に課題があることがわかった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

3-(2)

本問は修飾語と被修飾語を理解しているかどうかを問う問題である。「教室から」のような、連用修飾語になる副詞句は、被修飾語の直前に置くこともできるが、比較的自由に置くことができる。そうした特徴についても押さえるように指導する必要がある。

本問の目標値が30.0%に対して、正答率は、本市が21.3%、全国が19.9%であった。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

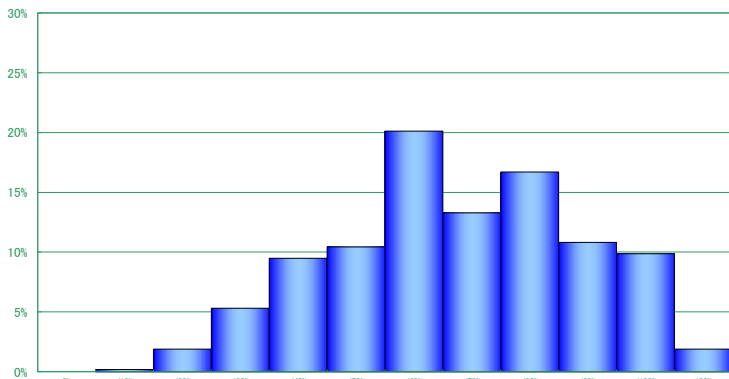
正答・・・ ④

算数(5年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	62.1	60.6	
	基礎	66.3	65.0	
	活用	45.8	43.6	
学習指導要領の領域等	数と計算	64.7	64.1	
	量と測定	54.8	51.3	
	図形	60.6	58.5	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	48.2	44.6	
	数学的な考え方	49.3	46.6	
	数量や図形についての技能	67.8	66.5	
	数量や図形についての知識・理解	64.1	64.2	
問題形式	選択式	61.6	60.6	
	短答式	66.8	64.9	
	記述式	34.0	30.4	

★正答率度数分布



○全国の平均正答率を上回り良好な状況である。

○記述式問題の正答率が全国を3.6%上回った。

▼正答率50%～60%が一番多い。上位層を増加させるために、授業において指導方法を工夫改善することが重要である。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問は三角形の合同条件についての問題である。合同条件を「暗記」させるだけではなく、どのような場合に三角形が一つに決まるのかを考えさせることが重要である。指導にあたっては、本問のように「相手に伝える」ために必要な言葉を考え、実際に伝えた時に相手が正確に作図できるのかを検証させる活動が考えられる。

本問の目標値が30.0%に対して、正答率は、本市が23.7%、全国が20.4%であった。全国を上回ることができたが、無解答率が30.9%であり、課題の大きい問題である。上記の活動のように目的意識を持たせるような授業づくりを進める必要がある。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

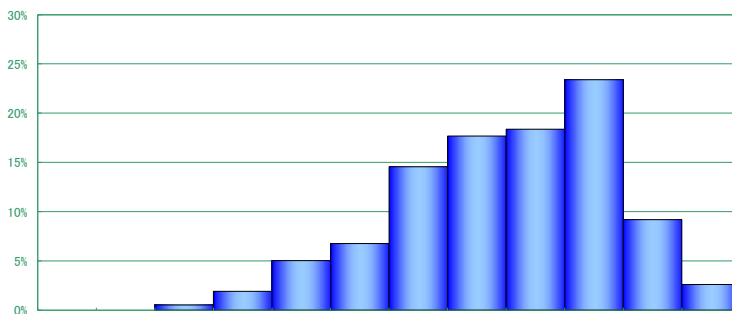
正答(例)・・・2つの辺の長さがそれぞれ6cm、7cmで、その間の角の大きさが100°です。

国語(6年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>
		柏原市	全国	
	全体	69.9	69.2	
	基礎	73.6	72.2	
	活用	56.4	58.3	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	74.3	76.2	
	書くこと	71.1	68.3	
	読むこと	64.1	64.2	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	70.8	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	72.0	71.6	
	話す・聞く能力	74.3	76.2	
	書く能力	71.4	68.7	
	読む能力	64.8	64.7	
	言語についての知識・理解・技能	71.7	70.6	
問題形式	選択式	66.7	67.6	
	短答式	74.3	72.7	
	記述式	70.2	67.4	

★正答率度数分布



○全国の平均正答率を上回り良好な状況である。

○「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国を上回った。

▼「話すこと・聞くこと」の領域では全国を1.9%下回っており、他の領域に比べると若干課題があることがわかった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(6年)問題で課題の見られた設問

正答・・・ ひざがいたむ

4-(3)
 文章の場面及び叙述を踏まえると、答えの可能性としては、「ひざがいたむ」か「足がいたい」が考えられるが、解答条件としての「六字で書きぬきましょう」を受けて、「ひざがいたむ」を抜き出す必要がある。文章内容は理解していても、設問の要求に適切に答えないと正答にはならない。日常の授業の中で、「条件」を意識して発問や課題を「設定」することが工夫として考えられる。

本問の目標値が40.0%に対して、正答率は、本市が33.4%、全国が35.4%で、2.0%全国を下回った。

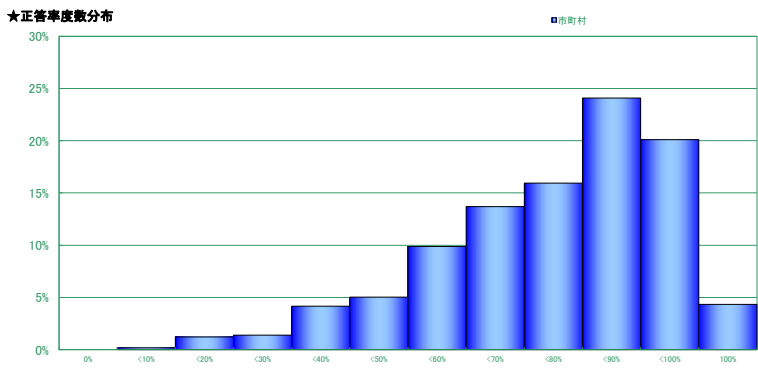
著作権の関係で表示できません。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

算数(6年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	全国	
	全体	74.2	73.9	
	基礎	76.0	75.5	
	活用	65.5	65.8	
学習指導要領の領域等	数と計算	78.3	77.9	
	量と測定	71.6	69.2	
	図形	76.9	76.9	
	数量関係	63.5	67.4	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	67.2	67.2	
	数学的な考え方	65.1	64.5	
	数量や図形についての技能	79.6	79.1	
	数量や図形についての知識・理解	70.9	71.8	
問題形式	選択式	70.2	70.4	
	短答式	82.2	81.5	
	記述式	52.4	50.6	



○全国の平均正答率を上回り良好な状況である。

○記述式問題が全国を1.8%上回った。

▼「数量関係」の領域では全国を3.9%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(6年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

13-(2)

本問は2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から、他方の文字の値を求める問題である。誤答の原因としては、2つの数量の関係が理解できていないことや、数量の関係を文字を使った式に表すことに慣れていないことなどが考えられる。指導にあたっては、文字の式に表す前段階として「言葉の式」を考えさせることが重要である。本問を例にすると、「残りの長さ=はじめの長さ-使った長さ」と表されることを理解させた上で文字を当てはめる。このように「言葉の式」で表すことは、数量関係を理解させるためにどの学年でも有効である。

本問の目標値が70.0%に対して、正答率は、本市が59.6%、全国が69.7%で、10.1%全国を下回った。

※目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

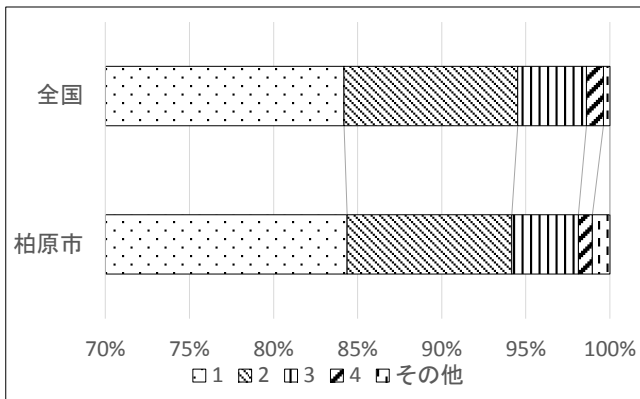
正答・・・ 13

生活習慣

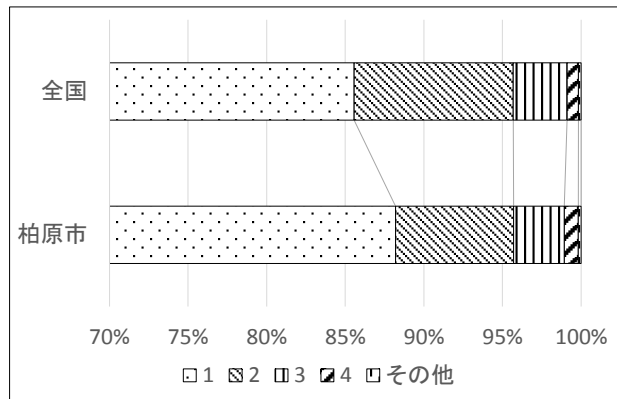
朝食を毎日食べていますか。

1…毎日食べる 2…だいたい食べる 3…あまり食べない 4…食べない

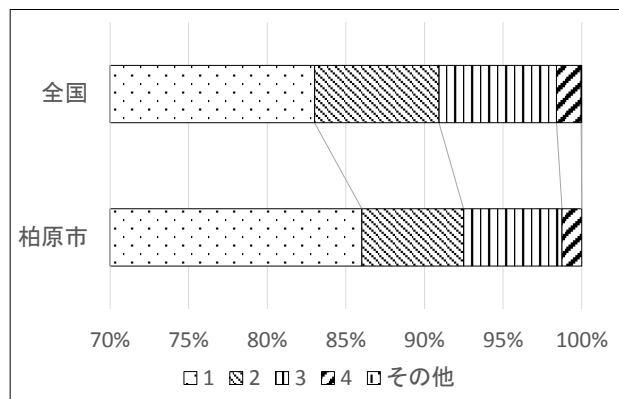
1年



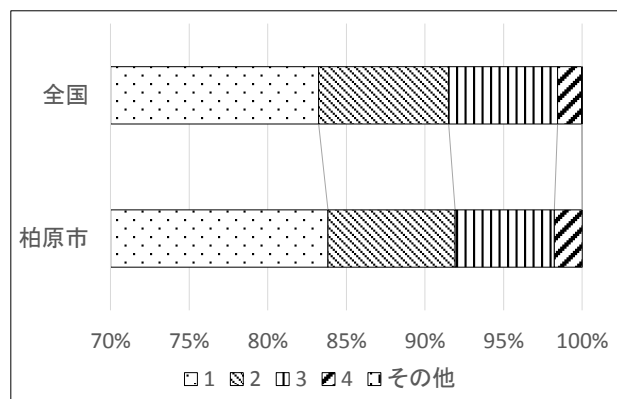
2年



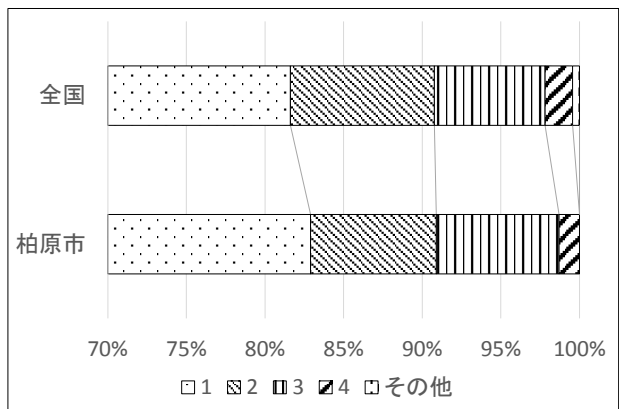
3年



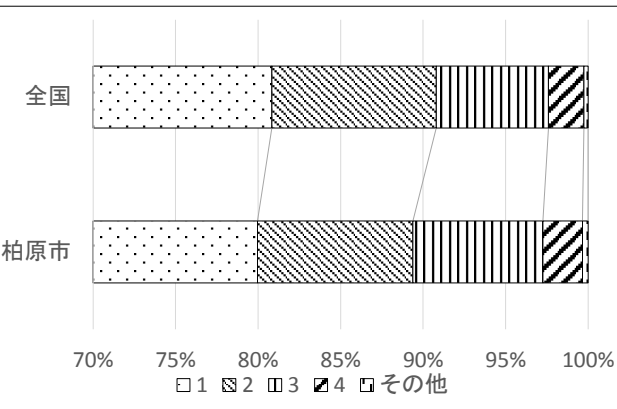
4年



5年



6年



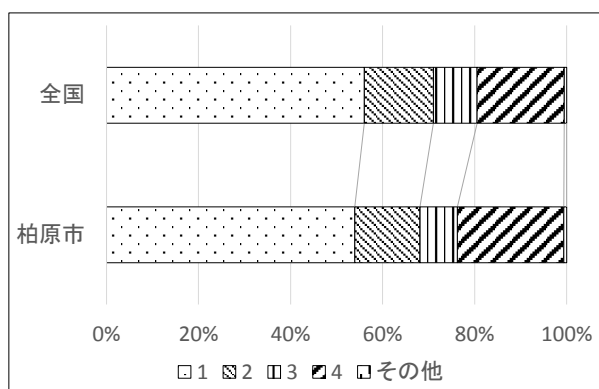
「朝食を毎日食べている」「だいたい食べている」と回答している児童の割合は、6年生でわずかに全国を下回るが、全体的に良好な傾向である。

生活習慣

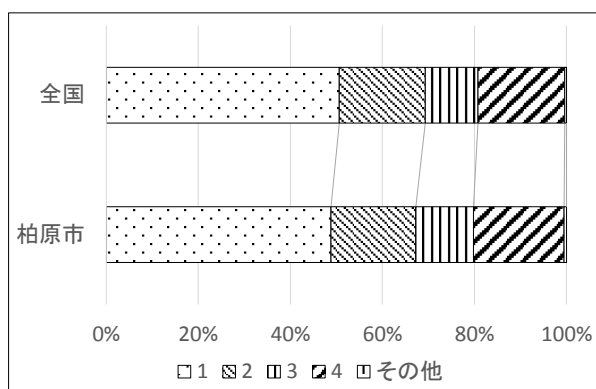
一日の遊び時間はだいたいこれくらいと決めていますか。
 (テレビ、DVD、ゲーム、インターネットの時間も含みます。)

1…きめている 2…だいたいきめている 3…あまりきめていない 4…きめていない

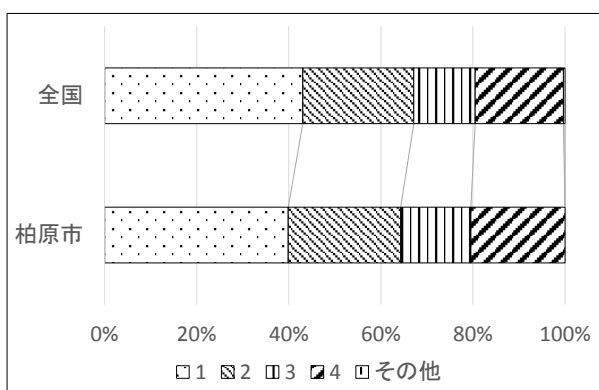
1年



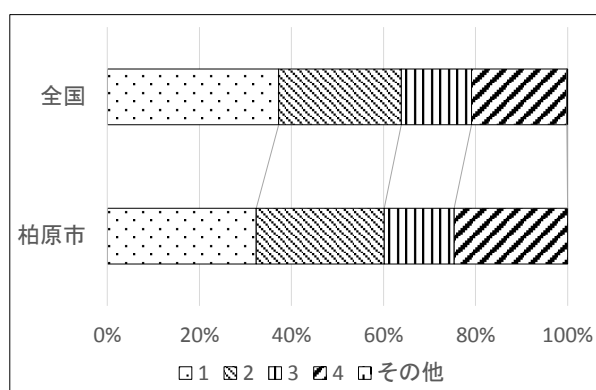
2年



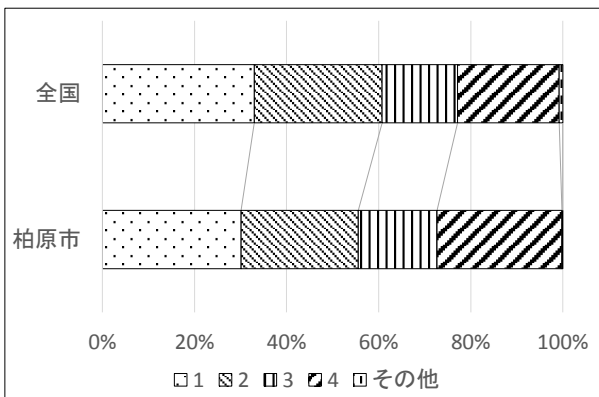
3年



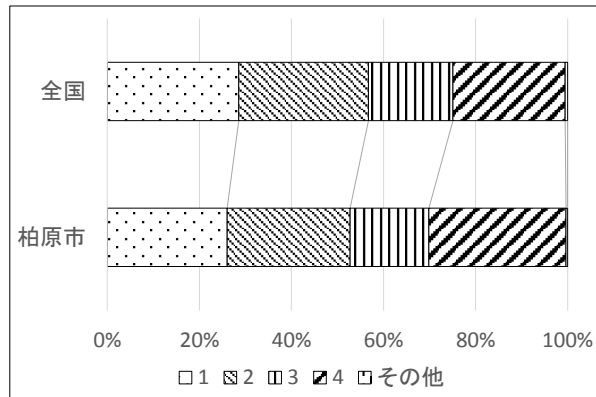
4年



5年



6年



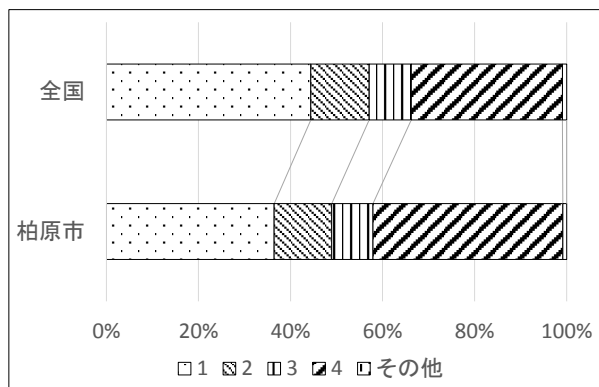
「一日の遊び時間をきめている」「だいたいきめている」と回答している児童の割合は、全学年において全国を下回っている。高学年になればなるほど、一日の遊び時間について「決めていない」割合が高くなっている。携帯電話の使い方も含めて啓発していく必要がある。

学習習慣

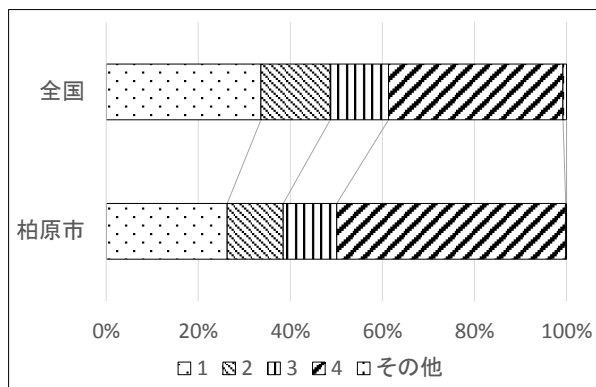
おうちでのべんきょうじかんをきめていますか。

1…きめている 2…だいたいきめている 3…あまりきめていない 4…きめていない

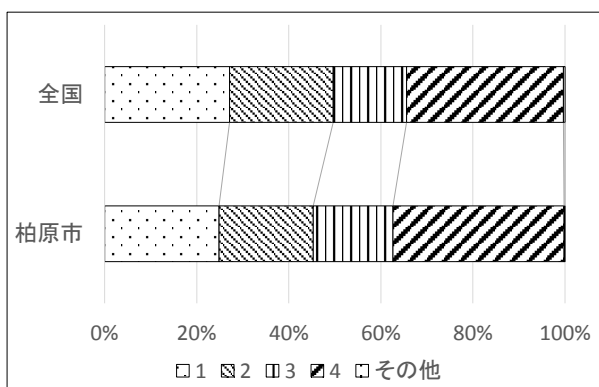
1年



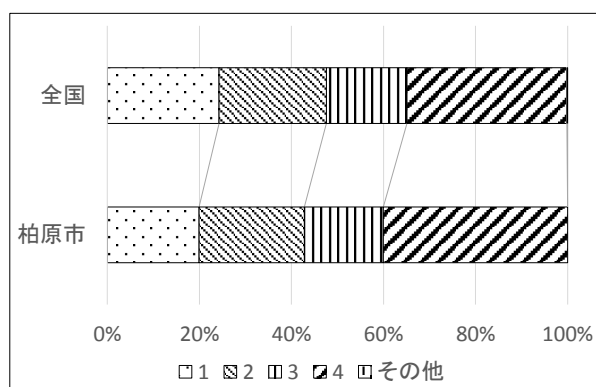
2年



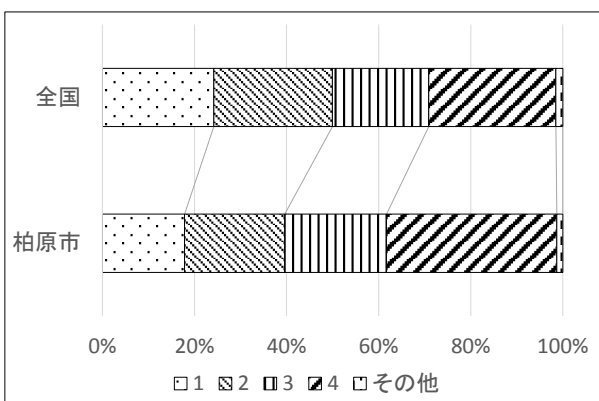
3年



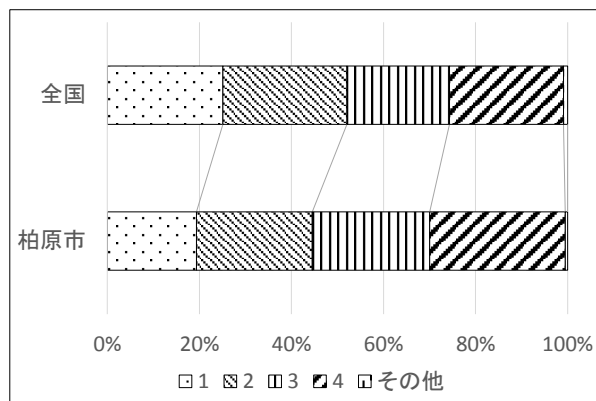
4年



5年



6年



「きめている」「だいたいきめている」と回答している児童の割合は、すべての学年で全国を下回っている。昨年度と比べても同様の結果になっている。家庭学習習慣の定着に向けて、児童が見通しをもって学習を進めることのできるように、計画の立て方を工夫するなどの必要がある。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・「書く力の育成」「書くための読む力の育成」をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施し、保護者に対してはリーフレットを発行して啓発する。

○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みを充実させる

○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

① 基本的な生活習慣の定着

- ・早寝早起きを習慣づけ、生活のリズムをつくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について 家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する